様式２

令和元年６月４日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長　殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

１．報告者情報

所属/学年	法文学部 経済情報学科４年	性　別	女
卒業/修了予定年月日	2020 年 3 月		

２．留学の概要

留学期間	開始年月日	2018 年 9 月 20 日	終了年月日	2019 年 2 月 24 日
留学のタイトル		東南アジアと鹿児島の架け橋に		
留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）				

私の留学の目的は、鹿児島と東南アジアの双方向の繋がりを強化することで鹿児島を活性化させたい、そのために双方向の需要を組み合わせたビジネスを生みだすとともに、ヒトを繋げる人材になり、ヒト・モノ・カネ三要素の流通を活発化させて、鹿児島経済の発展に繋げたいということだった。

今回の留学以前に大学の交換留学で、昨年タイに半年間留学した。その留学で、日本企業もしくは日本で働きたい東南アジア人の多さを知った。また、東南アジア各国で鹿児島県人会の方々と会う機会にも恵まれた。そこで、多くの鹿児島県出身の方々が、東南アジアから鹿児島を元気にしたいと強い思いを持っていることも知った。

これらの経験をきっかけに、東南アジアと鹿児島県の繋がりをもっと強化させることで鹿児島県の経済の発展化に繋げられると考えるとともに、私は鹿児島県内から東南アジアとの繋がりを強化する人材になりたいと考えた。

そのために、この留学で私は東南アジアの文化や労働環境・ニーズなどを理解した上で、鹿児島県の活性化の足がかりとなるプランを練る力と実行するための人脈を形成する。以上に加え、情報発信のための調査も行う。

具体的に留学の目的は次の３つである。１つ目は、東南アジアにフォーカスした、鹿児島県の企業の海外進出を促進するための情報収集であり、２つ目は鹿児島の人に東南アジアに興味を持ってもらうための、東南アジアの日本人情報収集、さらに、３つ目は日本語人材（日本語を話せる東南アジア人）の情報収集である。

そのうえで、私の 留学計画の概要は以下のとおりである。

上記の目的達成のために、東南アジアに進出する日本企業の集まりなどに積極的に参加し、その中の良い点や課題点を見つける。インターンシップ先の企業も東南アジア各地に現地の法人や企業と強い関わりを持っているため、インターンシップ先の繋がりからも多様な東南アジアの現場の戦略等について多方向からから話を聞くことができると考える。

また、インターンシップ先の企業では、東南アジアの日本語話者人材の日系企業就職・日本企業就職の支援を行っている。その業務の過程でも、日本語を話し、日本で働きたいと願う 外

国人にであうことができるので、彼らからのヒアリング をもとに 彼らがより幸せに働ける環境とは何なのか？どうすれば、上昇志向が高く、頑張る外国人を日本に呼ぶことができるのか につて考える材料集めをする。

３．　受入れ機関情報及びスケジュール

(1)　受入れ機関情報

	１ヶ所目の機関	２ヶ所目の機関	３ヶ所目の機関
国・地域	タイ		
都市名	バンコク		
機関名（英語）	TalentEx		
機関名（日本語）	タレンテックス		
受入れ機関 URL			

(2)　留学期間中のスケジュール　留学月数（　6　）ヶ月／授業料申請（有・�無）

年　月	留学先機関	国・地域	主な活動
2018 年 9 月 - 2019 年 2 月	TalentEx	タイ バンコク	世界規模で日本語人材を扱う人材企業にて、インターンシップ

(3)　参加したプログラム（有・�無）（複数選択可）

本学の協定校交換留学	―	本学の協定校交換留学以外のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	―
本学以外の機関による留学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	―		

４．　留学の成果及びその測定方法

成果発表（論文、作品等）		単位取得		外国語能力		その他	自主イベント実施

　インターンシップでは ASEAN 諸国でビジネスを行う上での各国の文化やニーズの把握、日本人と現地人の価値観のギャップへの対処法、各国の特徴に沿ったビジネス戦略についての知識が得られると想定できる。 フィールドワークから、東南アジアで活躍する人々からリアルなビジネススキルを学び、留学生から、東南アジア各国の留学のそれぞれの特色や、得られる経験、そして様々な留学の形についての情報を得られると想定する。また、同時に彼らと、帰国後も大きく活かすことのできる人脈も築く。

　これらの成果をもとにして、①双方向の需要を組み合わせたビジネスプランの提案②鹿児島の学生や事業家に向けての情報発信を中心とした活動を行う予定である。したがって成果はこれらの活動に参加した人たちの声や行動、私のビジネスプランによって生み出される新たな事業の効果から測定できると考える。

【留学後考える 成果からのアウトプット】
①双方向の需要を組み合わせたビジネスプランの提案
→ ビジネスプランを新たに考えるよりは、鹿児島のモノ・鹿児島の観光資源 の PR 方法や広報の戦略立案をおこない、県 もしくは企業を巻き込んで 海外進出のサポートを行いたい。

②鹿児島の学生や事業家に向けての情報発信を中心とした活動を行う予定である
→ 学生に向けて、学内で積極的に月１ペースでイベントを開催する予定である。

そのほか、私と私の友人で、留学・海外インターンシップ の相談窓口をつくり いつでも質問できるような環境をつくる。（個人ブログや Line@などを開設し、いつでも問い合わせできるようにする）

※当てはまる項目に〇を付し、具体的に説明して下さい（複数回答可）

５. 上記 4.も含め､留学の目的がどのように達成できたか､留学で得たことは何か記述してください。

留学の目的は次の３つであった。１）、東南アジアにフォーカスした、鹿児島県の企業の海外進出を促進するための情報収集。２）鹿児島の人に東南アジアに興味を持ってもらうための、東南アジアの日本人情報収集。３）日本語人材（日本語を話せる東南アジア人）の情報収集。

１）について、正直 個人的には、残念な結果になった。というのも、調査の過程で、鹿児島のみならず日本企業自体のプレゼンスの圧倒的低下が見られたからだ。もちろん日本食や日本の「抹茶」などは、評判がよい。しかしながら、圧倒的に中国・韓国の文化の存在感の強さを感じる事になった。まだタイでは日本のプレゼンスの高さを一見保っているように見える。しかし、実際は、韓国・中国のプロモーション力もかなり強く、正直日本の存在感はどんどん薄くなっていると感じた。

しかし、このことがわかったおかげで、いかにして 日本をプロモーションしていくべきか？鹿児島の生産品などをプロモーションしていくべきか？という課題に対しての突破口が見つかった。大学に戻った時点で、大学と企業 もしくは県・市につながりのある方との人脈をたどり、情報共有ができると思うので、それまでに、より 体系的にこの知見を共有できるようにレポートを作成しておきたいと思う。

２）と３）に関しては、十分に達成できたのではないかと考える。
しかし、「情報収集」というかたちでインプットはできたものの、まだ、この情報収集をアウトプットとしてきちんと出せていない。したがってこのリソースをきちんとアウトプットとして出せるように、２）に関しては、自分が所属しているインターン先のメディアでインタビュー記事を現在準備している。

３）の日本語人材について、インターン先のメディアでも活動を報告したり、日本で働く「外国人」にインタビューもした。これらのアウトプットによって少しずつ形にできているのでは無いかと思う。

次に、「留学で何を得たのか？」という点についてだが、私はこの留学で、私なりの「グローバル人材」の定義を見つけられたと考える。というのも、仕事の関係で、タイの人材のみならず、東南アジア各地の人材・東欧の人材・中国・インド…等 様々な国の人と関わることが多かった。故に、グローバル人材に必要なのは、相手の状況や背景を理解した上で、互いに理解の解像度がもっとも高いコミュニケーション方法を見つけることができる力 だという答えが見つかった。
それぞれ国の人の考え方や、使う英語 の違いについて自分の身をもって知った。
まず、「英語」に関してだが、自分が今まで学んできたいわゆる 文法ガチガチの英語がいつ何時も正しいものではないことに気づいた。グローバルイングリッシュとは、とにかく相手に「理解してもらえる英語」だということ。これは個人的に大きな発見だった。
相手の英語のレベルを見て、そこに合わせられるように話す英語。これこそが「グローバルイングリッシュ」だ。

また、相手の状況や背景を理解するという点についてだが、こちらは、もちろん「宗教」や「歴史」「地理」「教育」などの背景を知らねばならないということがわかった。これらの要因が深く絡み合い、我々の人格を形成している。だからこそ「勉強」する意味があるということにも気づいて、自分の興味分野も広がった。

６. 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。

私は今回の留学経験をベースに、まずは自分の周囲の大学生と海外の距離を近づけるべく、大学内での 留学・海外 情報交換イベントの実施や、個人的に 相談窓口を設置し、積極的に留学を少しでも考える 人の背中押しを行う活動に力を入れていきたいと思った。
また、留学に行かずとも 海外の人 との交流等ができるように、友達ベースで、鹿児島に来ている留学生 とも交流できるような 気軽なイベントの企画なども今後力を入れていきたいとも考えている。
さらに今回の留学で得た成果のひとつとして、 広報・PR の専門知識 も得られた。もちろんその職業を専門にしている人と比較するとまだまだ駆け出しではある。しかし日本国内における PR のみならず、海外にて自分たちの事業を PR していくためにはどんなことから考えて戦略を立てねばならないのか、といった部分については PR パーソンとしての強みになったと思う。
現在鹿児島県では、県の特産品を海外へとプロモーションしているという流れがある。したがって、残りの大学生活では、その部分とうまく協業しながら県・もしくは鹿児島の企業の方に海外プロモーションについて、提案・実行のお手伝いをしていこう と考えている。

７. 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。

まず、「今回の留学が自分の生き方に どのように影響したのか？」という点だが、この留学で、私はコミュニケーション設計 のベースを学ぶことができ、より一層自分の中での常識というものがなくなり、自分の頭で、自立して常に物事を判断することができるようになった。またそれだけではなく、自分にとっての「グローバル人材」の定義を見出すことができた。具体的には上の５.の欄で書いている。
今回、二度目の留学を経たことで、より自分らしい生き方、個性を大事にする生き方について こだわって生きていこうと思うようになった。タイにいると、日本人、外国人を含めて、皆、自由で自分の個性を大事に「自分にとっての幸せ」にこだわって生きている人にたくさん出会った。
留学するまでは「こうしなければならない」という型に自然にはまってしまっていて、自分を見つめ合うことを忘れてしまっていた。初めての留学でもうすうす感じていたものの、その感覚を言語化するまでには至らなかった。今回は２度目の留学ということもあり、この感覚を言語化することができたと思う。
総じていうと、留学をしたことによって、世界の様々な情報にアクセスすることができて、自分が生きていく上での選択肢が広がった。おかげで私の人生観は豊かでかつ幸福なものになったと自信を持って言えると思う。
しかし、大学の同期や後輩・先輩と話してみても、「こうしなければならない観」からなかなか皆飛び出すことができなかったり、自分をより幸福にするであろう選択肢に出会う機会すら出会えていないという課題を感じたりする。
これは、地方の大学という物理的な問題もあるであろうし、今まで育ってきた環境にもよるものであると思う。私は、今回の留学含め、今年１年間の休学期間で、日本国内の中の選択肢も、世界的な選択肢も見ることができた。これからもたくさんの選択肢をたくさん知ることになると思う。だからこそ、私は自分のライフワークとして、鹿児島の地方の大学生にも、東京・海外にいるのと同じ様に情報を提供していく活動をしていきたい。
本人が潜在的に欲しいと思う情報を見つけ出して、その情報を繋いであげられるだけでも、その人の世界は大きく広げられると思う。
だからこそ、そんな１対１での繋がりや活動も継続しつつ、鹿児島 の中でのあたりまえだと考えられる選択肢、情報の多様性をもたらせる様に 発信活動などに力を入れて生きていきたいと考えている。
そして、一人でも多くの鹿児島県の大学生・社会人が生き生きと生きていける世の中づくりに貢献したいと思う。

様式３

令和２年６月１日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）
留学後地域活性化報告書

１．報告者情報

所属/学年	法文学部 経済情報学科４年	性　別	女
卒業/修了予定年月日	2020 年 3 月		

２．　留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。

【活動のタイトル】鹿児島大生と海外を「身近」に

【活動の期間】　2020 年　4 月　15　日～　2021 年　3　月　30　日

【活動の概要】

東南アジアと鹿児島のつながりを強化する手がかりを発見することを目的とし、東南アジアのハブとも言えるタイ・バンコクの企業にてインターンシップをしながら現地でのフィールドワークを実施した。東南アジアに住む多くの鹿児島県出身者の「鹿児島を元気にしたい」という強い思いを今回の留学で知った。一方、東南アジア鹿児島県人会に所属する「若手」は少なく、鹿児島の若者に対しての危惧の声も頂いた。鹿児島大学の同級生・後輩に東南アジアを含む「アジア」へのイメージを聞いても興味・関心を強く抱いている人も少ない。留学の経験も踏まえ、まずは鹿児島大学内でアジアに関心を持つ学生を増やすことが急務だと考えた。加えて、鹿児島からアジア進出の土壌を作り上げていくようなビジネスプラン・戦略の考案も必要だと考えた。しかし、コロナウイルスの影響により、国をまたぐ事業についてはすぐに動けないと考えた。学生に向けた情報発信に注力した活性化活動を実施した。

■メディアを用いた情報発信

ブログプラット（note：https://note.com/un_kgsm_uni ）を使用。

【コンテンツ】

・留学経験者（交換留学/トビタテ/進取の精神/私費留学 etc…）へのインタビュー

・鹿児島大学の留学制度の紹介と解説

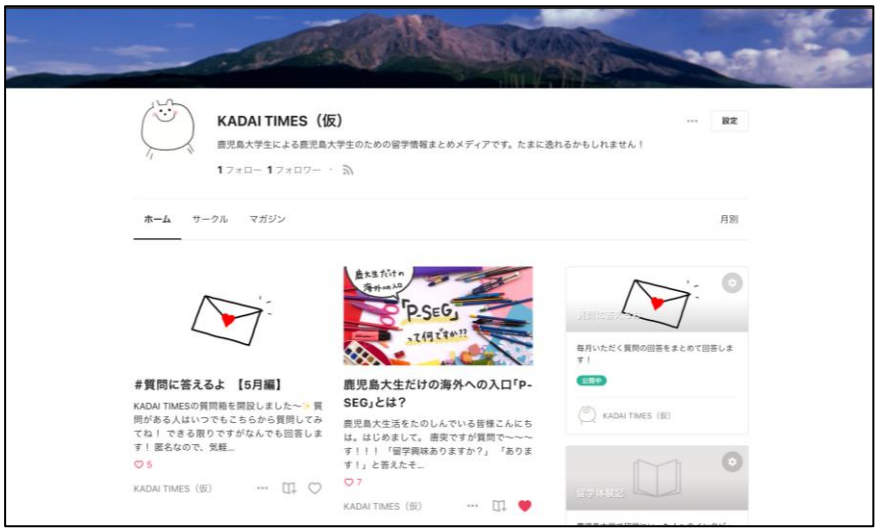
・設置した目安箱への回答　など

■留学相談窓口の設置

留学を希望する学生の相談を受け、適した留学の形を相談できるような相談窓口を設置。希望者が多ければ、ワークショップなどの形にすることも想定。

■リアルイベントの運営（アフターコロナ）

上に述べている、留学希望者に向けた、留学計画を考えるワークショップや留学準備のための勉強コミュニティを作ることを想定している。リアルに集まり、顔が見える状態でコミュニティを作ることで、留学へのモチベーションを上げることを狙いとする。10 月時点の COVID-19 の状況を見て、オンライン・オフラインは決定する。



【メディアを使った情報発信/ 週に１回の更新でコンテンツを配信】

３.鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。

【活動の成果】

新入生を対象に、留学相談に乗ることからはじめた。留学に興味を持つ学生のほとんどは、欧米圏への留学を希望している。したがって、情報発信の方向性についても「東南アジア」についての情報発信に軸を据えるよりも「海外留学」という入り口について取り上げるというコンテンツ構成にした。かつ、現在 COVID-19 の影響により、「海外留学にいけないのではないか」という不安感が学生に拡がっている。もとより、留学を検討する層にコンテンツが届いている手触り感はあるが、最終目標とする「アジア留学」を選択する学生はいまだ少ない。

【今後の課題】

アジア圏への留学に関心を持つ学生を増やす必要がある。留学に関心を持つ大学生の総数を増やさねばならないと考える。留学体験談を話す機会も情報の公開も現時点でなされているが、そうした情報に積極的に触れようとする学生の母数が少ないことが一番の課題だ。加えて、すでに留学に行った学生同士のつながりが薄い点も課題のひとつだ。鹿児島×アジアの共通点を持った人同士でつながることで、将来的な鹿児島への還元も見込めると考えているからだ。

【課題からみる展望】

現時点の課題は、①アジア圏への留学に関心を持つ学生が少ないこと、②鹿児島×アジアの共通点を持った人のつながりが薄いことの２つである。

① アジア圏への留学に関心を持つ学生が少ないこと

「海外留学」を軸とした情報発信を毎週行う。簡単で、わかりやすく、クリエイティブを充実させたコンテンツにすることで、留学に関心を持つ読者の母数を増やすことを目指す。アジア圏に留学する学生が毎年 30 名ほど生まれるような土壌づくりに貢献したい。

② 鹿児島×アジアの共通点を持った人のつながりが薄いこと

東南アジアに住む鹿児島県人のネットワークは、ビジネスにも強く影響を及ぼしている現場を目の当たりにした。しかし、現在鹿児島大学内での繋がりは希薄である。鹿児島大学の留学制度でアジアに進んだ学生同士でつながるコミュニティをつくることで、大学卒業後ビジネスパーソンとして鹿児島県で事業をつくる人が生まれた時、新たな価値を創造できる可能性もあると考える。したがって、既に卒業した学生からこれから留学に行く学生までを繋ぐクローズドなコミュニティをつくりたいと考えている。